

2024年度 事業計画書

公益社団法人日本オリエンテーリング協会

公益社団法人日本オリエンテーリング協会 中期事業計画 2023～6

2023年からの長期事業方針は、以下の5つの柱から成っている。

1. オリエンテーリングの価値を発信し、社会に貢献する
2. アスリートを育成・支援し、生涯スポーツを推進する
3. 国際交流・協力を推進する
4. 組織力と基盤を強化し持続可能な組織とする
5. 構成員・支援者を支える

これに基づいて、2023～6年度の中期事業計画として、具体的に以下に示すような事業を行う。

1. オリエンテーリングの価値を発信し、社会に貢献する。

1-1：広報の強化、メディアへの露出を増やす。

1-1-1：各種媒体、特に若年者の親しみやすいメディアなどによる広報システムの見直しと構築、管理体制の強化を行う。

1-1-2：オリエンテーリングの競技性、魅力・楽しさ、教育効果など様々な価値のアピールを行う。

1-2：JOC、JPCへの参画。

1-2-1：JOCの「承認団体」から「準加盟団体」への昇格を目指して活動を行う。

1-2-2：JPCへの加盟を目指して活動を行う。

1-3：他のスポーツ団体との協力、協働。

1-3-1：アウトドアスポーツ界と協働したイベントを継続的にを行い、オリエンテーリングの情報を発信する。

1-3-2：陸上競技、スキー、自転車、等の愛好家に向けて、オリエンテーリングの情報を発信する。

1-3-3：デフリンピック東京大会2025を成功させ、さらにパラスポーツ界へのアピールを行う。

1-3-4：様々なマルチスポーツイベントの種目として参画する。

1-4：大学スポーツへの採用。

1-4-1：UNIVAS事業への協力。

1-4-2：学会等の学術団体との交流。

1-5：高校の部活動との協働による登山界への認知。

1-5-1：高等学校体育連盟の事業への協力と参入。

1-5-2：高校の部活動での指導者の育成と支援を行う。

1-6：教育施設（小中学校、野外活動施設）に向けてのアプローチ。

1-6-1：野外活動施設・学校の地図作製・教育事業への協力。

1-6-2：教育者向けに、リーフレットを作成するなどのアピールを行う。

1-7：パーマネントコース（PC）の活用。

1-7-1：全国のPCの整備状況、利用状況を継続的に把握する。

1-7-2：PCの維持、整備に関して、各会員等へのサポートを行う。

1-7-3：PCの活用法について検討する。

1-8：地域への貢献：スポーツツーリズムによる地域活性化。

1-8-1：地方行政事業への協力・参画。

1-8-2：新たなトレインの開拓を推進する。

1-9：各種技術（読図、ナビゲーション、大会運営、地図作成）の社会還元。

1-9-1：読図、ナビゲーションについての講習会開催・情報発信。

1-9-2：大会運営ノウハウについての講習会開催・情報発信を行う。

1-9-3：地図作成ノウハウについての講習会開催・情報発信を行う。

1-10：環境問題への対応。

1-10-1：環境負荷の少ないスポーツであることを社会にアピールする。

1-11：スポーツとしての意義、価値の探求。

1-11-1：将来構想委員会の設置に向けて準備をする。

2. アスリートを育成・支援し、生涯スポーツを推進する

2-1：世界に通用する選手の発掘、戦略的育成。

2-1-1：世界選手権などへの選手参加支援を行う。

2-1-2：選手育成のための系統的指導方法と体制を継続的に検討する。

2-1-3：コーチ等の指導者が実質的に機能する仕組みを構築する。

2-1-4：他のスポーツからの選手リクルートを行う。

2-1-5：ランキング制度の適切な運用を継続する。

2-2：ジュニア世代の育成。

2-2-1：ジュニア世代対象イベント（インターハイ、ジュニアチャンピオン大会など）に対する支援を行う。

2-2-2：各大会での小中学生・高校生を対象としたクラスの参加者増、注目度アップを図る。

2-3：女性とシニア世代の強化。

2-3-1：女性に向けての普及法、指導法の検討を行う。

2-3-2：シニア、ベテラン世代に向けての普及法、指導法の検討を行う。

2-4：尊敬され、憧れられるアスリートの育成。

2-4-1：アンチ・ドーピング教育を行う。

2-4-2：選手、指導者のインテグリティ・コンプライアンス教育を行う。

2-5：コーチ、指導者のステータスの確立。

2-5-1：コーチ、指導者の社会的認知度を上げ、その存在感を創出する。

2-5-2：指導者のモチベーションを上げる体制、例えば指導力の評価方法や金銭的な見返りの可能性を検討する。

2-6：大会の開催と質の維持。

2-6-1：主催大会（全日本選手権）の安定的開催とありたい大会モデルとしての質の維持を継続する。

2-6-2：いつでも気軽に大会に参加できる体制を作り、その結果として大会における参加者増と競技者登録者増を図る。具体的には主催大会で1,000人超の参加、競技者登録者の5,000人超を目指す。

2-6-3：イベントアドバイザー、イベントディレクターを充実させる。

2-6-4：テレインと地図の管理のあり方について検討する。

2-7：大会運営サポート。

2-7-1：競技規則やガイドライン等の規程類の適切な整備・管理を継続する。

2-7-2：大会運営サポート体制・大会運営技術の普及を継続する。

2-7-3：指導者の養成制度を継続し、ブラッシュアップのための研修制度など内容の改善を図る。

2-7-4：IT、語学、医療、教育といった様々な能力を、ボランティアとして活用できる体制を整備する。

3. 国際交流・協力を推進する

3-1：世界選手権などへの選手派遣を継続的に行う。

3-2：国際大会の招致。

3-2-1：世界選手権・大陸別選手権大会の開催。2025年デフリンピック東京大会、2026年スキー0世界選手権の招致、2027WMG 関西大会（WMOC 併設の招致）、アジア選手権大会招致など。

3-2-3：WRE(World Ranking Event)の開催。全日本ミドル・ロング大会での継続と共に、対象大会の増加を図る。

3-3：IOF(International Orienteering Federation)の事業への協力・参画。

3-3-1：WOD(World Orienteering Day)事業に協力を継続する。

3-3-2：IOF 総会、地区会議に出席する。

3-3-3：IOF への委員の派遣を行う。

3-4：アジア地区連盟の設立の具体的作業を行う。

4. 組織力と基盤を強化し持続可能な組織とする

4-1：財政健全化。

4-1-1：財務の明確化作業を継続的に行う。

4-1-2：収入財源の確保と見直しを行い、収益事業を増やす。

4-1-3：財務委員会を設置し、計画的財務管理を行う。

4-1-4：現在のオフィシャルパートナーに引き続きサポートしていただくとともに、新規のスポンサーを獲得する。

4-2：事務局の強化。

4-2-1：事務局員の増員と業務分担の見直しを継続的に行う。

4-3：人材育成と組織維持計画の構築。

4-3-1：適切な役員の選任：特に外部役員招聘、女性役員の増員を図るため、役員構成を見直す。

4-3-2：ノミネーションWGの活動を継続し、計画的役員養成、次世代役員候補者の発掘を行う。特に若手役員の登用、専門性の高い有識者の登用を図る。

4-3-3：人材養成事業への参加を進める。

4-4：委員会等内部組織構造の見直し。

4-4-1：委員会機能の充実のために、委員会業務分担の構成を適宜見直し、機能しやすい組織にする。

4-5：コンプライアンス強化。

4-5-1：組織役員のコンプライアンス教育を継続的に行う。

4-5-2：必要に応じて規定類の整備、改訂を行う。

4-6：大会運営等におけるボランティアとエキスパートの協働体制の構築。

4-6-1：主催大会を運営する中で、協働体制を構築し、モデルの呈示を行う。

4-7：リスクマネジメント。

4-7-1：事故やインシデント事例などの情報収集を行う。

4-7-2：危機管理体制、特に初動体制の構築を行う。

5. 構成員・支援者を支える

5-1：会員・地方組織活性化支援。

5-1-1：人が集える場の提供をするための具体策を検討、実行する。

5-1-2：人的ネットワークを充実させるための具体策を検討、実行する。

5-1-3：資金的バックアップを行うための具体策を検討、実行する。

5-2：会員団体等との協力。

- 5-2-1：日本学生オリエンテーリング連盟との協働体制を強化し、学生に向けて JOA の意義や役割のアピールを行う。
- 5-2-2：日本デフオリエンテーリング協会に対する協力として、デフリンピックの準備態勢構築、気運の醸成、ろう者対象講習会の開催、などを行う。
- 5-2-3：パラスポーツとの共同事業の可能性を検討する
- 5-3：地域クラブ活性化支援。
- 5-3-1：クラブ事業の活性化への支援を行う。例えば、地域クラブから学生等に向けた情報発信として合同説明会の開催などを行う。
- 5-4：一般愛好家、競技者の支援。
- 5-4-1：大会運営技術の普及、運営モデルの呈示、技術講習会などの開催を継続する。
- 5-4-2：安全啓発のための講習会開催を継続する。
- 5-4-3：新型コロナウイルス感染症に対する対応策について、社会情勢に応じた見直しを行う。
- 5-5：利害関係者の支援。
- 5-5-1：関連事業者（プロマッパなど）との適切な関係を維持する。
- 5-6：スポンサー・サポーター支援。
- 5-6-1：スポンサーにとって見返りのある事業形態を検討する。
- 5-7：他団体との協働活動。
- 5-7-1：学校教育でのオリエンテーリングの導入と利用継続について、指導者の派遣や教員へのオリエンテーリングの説明などの協力を行う。
- 5-7-2：スポーツ施設、野外教育施設への協力、協働を行う。
- 5-7-3：地方行政・自治体等との良好な関係を維持、継続する。
- 5-7-4：他のスポーツ団体との共催イベントなどの協働事業モデルを構築する。
- 5-8：上位団体（国内）への協力。
- 5-8-1：JSP0（日本スポーツ協会）、JOC（日本オリンピック委員会）、JPC（日本パラリンピック委員会）、スポーツ庁、JSC（日本スポーツ振興センター）、UNIVAS（大学スポーツ協会）などに継続的に協力する。

公益社団法人日本オリエンテーリング協会 2024 年度事業方針

公益社団法人日本オリエンテーリング協会 中期事業計画 2023～6 に基づいて、2024 年度事業として、継続、強化、早期着手すべき事業は以下の通りとする。

I：公益事業

1. IOF の事業への協力、国際大会の招致
2. JOC, JPC への参画
3. 他のスポーツ団体との協力・協働、大学スポーツへの採用、高校の部活動との協働
4. 各種技術（読図、ナビゲーション、大会運営、地図作成）の社会還元

II：普及

5. 広報の強化
6. 会員・地方組織活性化支援、地域クラブ活性化支援
7. 教育施設に向けてアプローチ
8. スポーツツーリズムによる地域活性化
9. 選手強化のためのコーチ・インストラクターの養成

III：競技会

10. 主催大会（全日本選手権）の開催と質の維持、参加者増
11. 競技規則やガイドライン等の規程類の適切な整備・管理
12. 大会運営技術の普及、運営指導者の養成と運営サポート体制の構築

IV：競技力

13. 世界選手権などへの選手派遣
14. アンチ・ドーピング教育
15. 選手・指導者へのインテグリティ・コンプライアンス教育

V：総務

16. 財政健全化
17. 事務局の強化
18. 適切な役員選任、組織構造の見直し
19. 役員のコンプライアンス教育
20. リスクマネジメント

事業内容

I：公益に関する事業

- 1.1 関係諸機関・団体との連携事業。
 - 1.1.1 所管機関等との連携に務める。
 - 1.1.2 本協会の加盟団体・関係団体の組織強化に務める。
 - 1.1.3 JOC 国際人養成アカデミーに参加する。
- 1.2 外部団体等への加盟、派遣
 - 1.2.1 我が国を代表し、国際オリエンテーリング連盟（IOF）に引き続き加盟し、委員会等へ派遣を行う。
 - a. IOF の専門委員会に委員を派遣する。
 - b. アジア地区におけるオリエンテーリングの普及発展に IOF と連携して取り組む。
 - c. World orienteering week 事業に協力する。
 - 1.2.2 （公財）日本オリンピック委員会に引き続き加盟し、各委員会等へ派遣を行う。
 - 1.2.3 （公財）日本スポーツ協会に引き続き加盟する。
 - 1.2.4 （公財）日本アンチ・ドーピング機構に引き続き加盟する。
 - 1.2.5 （一社）日本スポーツフェアネス推進機構に引き続き加盟する。
 - 1.2.6 （一社）大学スポーツ協会に引き続き加盟する。
 - 1.2.7 JSTA（日本スポーツツーリズム推進機構）に引き続き加盟する。
 - 1.2.8 JPSA（日本パラスポーツ協会）登録および JPC（日本パラリンピック委員会）加盟を検討する。
- 1.3 社会認知
 - 1.3.1 国内外のマルチスポーツ大会への採用への働きかけと選手派遣を行う。
 - 1.3.2 会員（都道府県協会）がそれぞれの都道府県スポーツ協会等に加盟することを促進する。

II：普及・指導に関する事業

- 2.1 指導者養成、資格認定、登録
 - 2.1.1 日本スポーツ協会と共同し新規コーチを育成する。
 - 2.1.2 イベントディレクタの講習会を開催し、新規イベントディレクタを育成する。
 - 2.1.3 イベントディレクタ、インストラクタの資格審査、認定・登録を行う。
 - 2.1.4 ナヴィゲーション・インストラクタ養成講座及び更新講習会、ナビゲーションスキル講習各級検定を開催し各資格を認定する。
- 2.2 常設コース（パーマネントコース）

- 2.2.1 会員および行政機関、企業等により設置申請のあったコースについて判定・認定及びコース設定、地図に関する指導を行う。
- 2.2.2 認定常設コースの規格器材の指導を行う。
- 2.2.3 常設コース情報の整備及び活用方法、時代環境に合わせた再構築を検討する、
- 2.2.4 ネットプリントの推進を図る。

2.3 距離認定表彰

- 2.3.1 オリエンテーリング 100 キロコンペ大会の認定を申請に基づき認定する。
- 2.3.2 オリエンテーリング 100 キロコンペの参加申請にたいし、走歩距離の認定を行い、一定距離毎に表彰を行う。
- 2.3.3 100km コンペ制度の今後のあり方の検討を行う。

2.4 普及及び受託事業

- 2.4.1 普及に関する研修会・講習会を開催する。
- 2.4.2 活動が停滞している会員に対し、普及・活性化のための支援、指導を図る。
- 2.4.3 加盟していない県組織に対し、情報活動を行うとともに、加盟への働きかけと指導、指導を図る。
- 2.4.4 民間企業等からの受託事業の推進を図り、実施する。
- 2.4.5 野外活動施設、民間企業への普及を図る。
- 2.4.6 ワールドオリエンテーリングウィークの実施を推進し、学校教育への新たな導入への方策を検討する。
- 2.4.7 地域クラブの活性化を、例えば学生に向けての合同説明会のような形で支援する。
- 2.4.8 高校登山部への技術指導について、高体連登山部と協力する。
- 2.4.9 大学教育への取り入れについて調査研究と情報提供を行う。
- 2.4.10 ロゲイニング協会の JOA の加盟を進める。
- 2.4.11 Mountain Marathon 形式の普及を進める。

2.5 広報

- 2.5.1 会員及び競技者、指導者他行政、企業、報道関係に対し、積極的に情報の提供を行う。
- 2.5.2 JOA ニュースの編集、発行を行う。
- 2.5.3 ホームページ維持管理及び充実を図り、情報の提供を行う。
- 2.5.4 プレスリリースを実施する。
- 2.5.5 理事会・事務局便りの発行を行う。
- 2.5.6 Facebook, X, YouTube にて情報を発信する。
- 2.5.7 JOC の「スポーツと環境」に賛同し、大会等において環境のための啓発活動を推進する。

2.6 地域活性化委員会

- 2.6.1 各地区からの助成金支援申請への対処
 - ・各会員から提出される助成金支援申請に対する審査、回答書案の作成。
- 2.6.2 モデル事業「九州地区活性化」
 - ・九州をモデルとした、1 県で 1 か所の活動拠点を設定し、大会でなくても、練習会など人と人が集まれる機会を常設コースなどを利用して継続する。
- 2.6.3 会員支援制度の改善
 - 支援額の逆進性などを考慮し、新たな支援制度の基本を提案する。
- 2.6.4 地域懇談会の開催
 - 各会員と JOA 執行部と 1 対 1 の懇談会を行い、より密な関係を築く。

Ⅲ：競技会の開催及び公認に関する事業

3.1 主催大会

- 3.1.1 国内に於いて次の大会を主催する。

a. 第 13 回全日本オリエンテーリング大会ミドル競技	2024 年 10 月 19 日 岐阜県 [WRE 対象]
b. 第 51 回全日本オリエンテーリング大会ロング競技	2024 年 10 月 20 日 岐阜県 [WRE 対象]
c. 第 16 回全日本トレイルオリエンテーリング選手権大会	開催日、開催地未定
d. 第 17 回全日本オリエンテーリング大会スプリント競技	2025 年 2 月 9 日、東京都

- e. 第33回全日本リレーオリエンテーリング選手権大会 2024年12月8日、三重県
- f. 第13回全日本スキーオリエンテーリング選手権大会
 - パシュート・スプリント 2025年 月 日～ 日 未定
 - ミドル・リレー 2025年 月 日～ 日 未定

3.2 公認大会

- 3.2.1 会員よりの公認大会申請を受け、競技規則に基づいて認定を行う。
- 3.2.2 大会イベントアドバイザーの任命、選手権(E)クラスの推薦の審査、記録の認定等を行う。

3.3 ランキング

- 3.3.1 日本ランキングを行う。(対象競技：フットO)を継続する。

3.4 国際大会の開催

- 3.4.1 ワールドランキングイベントを開催する。
- 3.4.2 日本開催決定の2026年世界スキーオリエンテーリング選手権大会の準備を行う。
- 3.4.3 デフリンピック2025におけるオリエンテーリング競技の準備を行う。
- 3.4.4 ワールドマスターズゲームズ(WMG)2027 関西におけるオリエンテーリング競技の準備を行う。併せてWMOC2027の併催とすべく招致活動を行う。
- 3.4.5 日本開催決定のAsJYOC2025の準備を行う。

3.5 その他の競技会

- 3.5.1 ナヴィゲーションゲームズ2024を賛同する団体と共催し開催する。

3.6 賠償責任保険及び傷害保険

- 3.6.1 会員と協力して賠償責任保険を締結する。
- 3.6.2 JOA主催事業の大会、練習会・合宿及び、公認大会等への参加者及び運営者への傷害保険を締結する。

3.7 規程・規則

- 3.7.1 オリエンテーリング競技に関する規則類を、競技の実情を見ながら適宜更新する。
・競技委員会(フットO)、スキー委員会(スキーO)、トレイル委員会(トレイルO)
- 3.7.2 地図図式等の整備及び検討を行う。(スキーO、トレイルO、MTBO)
- 3.7.3 組織の健全な運営のために規程類の整理・改廃を行う。

3.8 競技者登録

- 3.9.1 競技者登録を、会員からの登録とJapan-O-entryを活用し、継続して登録を行う。
- 3.9.2 競技者登録者に対して情報提供を行う。

3.9 地図委員会

- 3.8.1 ISOM/ISSprOM改訂版の翻訳 (IOFからの発行次第随時)
- 3.8.2 地図図式、地図調査技術についての普及活動、地図のガイドブックの作成

3.10 競技委員会

- 3.10.1 委員会の開催
- 3.10.2 規程類の保守
- 3.10.3 イベントアドバイザー関連
イベントアドバイザー講習会の開催(東北地区、関西地区で各1回の予定)
イベントディレクタ学習資料の更新、認定試験の実施
- 3.10.4 公認大会の認可、イベントアドバイザーの任命、Eクラス推薦の審査および記録の認定を行う。

3.11 全日本大会実行委員会

- 3.11.1 2024年度大会の計画、開催及び運営実施。

競技、会計、演出について知識・技術を蓄積し各開催地の会員と連携し、知識・技術を展開・運営を共同で実施する。

- 3.11.2 2025年度以降の大会計画・中期目標策定。
開催地について競技性、地域性を加味して選定し、テレイン指定にて会員への開催依頼を行う。
- 3.11.3 日本ランキングの計画・執行を行う。

3.12 スプリント委員会

- 3.12.1 2024年度大会の開催及び運営。
- 3.12.2 2025年度大会の計画、準備。
- 3.12.3 日本ランキング（スプリント）の計画・執行を行う。

3.13 全日本リレー委員会

- 3.13.1 全日本リレー開催地決定の中長期的な活動を行う。

IV：競技力向上に関する事業

4.1 世界選手権への選手派遣、役員派遣

- 4.1.1 WOC [2024年7月12日～7月16日 イギリス]への選手・役員派遣を行う。
- 4.1.2 JWOC [2024年6月30日～7月7日 チェコ] への選手・役員派遣を行う。
- 4.1.3 WCup [2024年5月25日～26日 スイス]、[6月1日～2日 イタリア]、[8月17日～20日 ハンガリー]、[9月27日～29日 フィンランド] への選手・役員 派遣を行う。
- 4.1.4 AsOC [2024年12月20日～26日 タイ] への選手・役員派遣を行う。
- 4.1.5 WUOC [2024年8月1日～5日 ブルガリア] への選手・役員派遣を行う。
- 4.1.6 WMMTBOC [2024年8月7日～10日 デンマーク] への選手・役員派遣を行う。
- 4.1.7 WMTBOC [2024年9月9日～16日 ブルガリア] への選手・役員派遣を行う。
- 4.1.8 SKIOWCUP [2025年2月14日～2月17日 ドイツ] への選手・役員派遣を行う。
- 4.1.9 壮行会・報告会を開催する。

4.2 選手認定事業「強化」

- 4.2.1 WOC, WCup 等に、出場する選手を選考し代表チームを編成する。また、選考会の開催、代表選手の認定・派遣、合宿開催等による強化、情報提供、支援活動及び報告会を実施する。
- 4.2.2 強化選手の指定(フォレスト強化選手、スプリント強化選手)、強化合宿・練習会等による強化の他、情報提供、支援活動を実施する。
- 4.2.3 国際大会の出場を目指すデブ選手向けの合宿・練習会等による強化を行う。

4.3 選手認定事業「ジュニア」

- 4.3.1 JWOC 等に選手を選考し、代表チームを編成する。また、選考会の開催、代表選手の認定・派遣、合宿開催等による強化、情報提供、支援活動及び報告会を実施する。
- 4.3.2 U-20, U-18 強化選手の指定、強化合宿・練習会等による強化の他、情報提供、支援活動を実施する。
- 4.3.3 国内における若手選手の発掘・育成する。
- 4.3.4 日本ジュニア選手権創設に向けての準備を進める。

4.4 選手認定事業「スキー0」

- 4.4.1 国際大会への参加支援
 - a. ワールドカップへの日本代表選手派遣。
 - b. FISU World University Games Winter Torino 2025 への日本代表選手推薦。
 - c. ジュニア世界選手権への日本代表選手派遣。
 - d. その他、海外開催のワールドランキングイベントへの参加支援。
- 4.4.2 強化活動
 - a. 強化選手の指定。
 - b. 強化合宿の開催(残雪期、夏期、秋期、冬期)全6回程度。
 - c. フット強化合宿への参加支援(ナビゲーションスキルおよびフィジカル向上、スプリントに帯する競技力向上等)。

- d. オンラインセミナー（地区読み会など）
- e. 強化計画策定支援
- 4.4.3 代表用具の整備
 - a. 日本代表ウェアの整備。
 - b. 競技用具の整備。
 - c. ワックスのフッ素フリー対応に伴うワクシング用具の再整備。
- 4.4.4 代表選手教育
 - a. クリーンスポーツ（アンチドーピング、スポーツインテグリティ）、ワックスフッ素フリー教育。
- 4.4.5 大会の開催
 - a. 全日本大会（スプリント、パシュート、スプリントリレー、ミドル）の実施。
 - b. ローカル大会開催の支援。
- 4.4.6 普及・広報活動
 - a. 強化候補選手の発掘
 - ①ジュニア選手の発掘。
 - ②初心者講習会の開催。3回開催 参加者延べ50人目標
 - b. スポンサーの獲得活動。
 - c. スノーシューオリエンテーリング大会の開催を通じたスノースポーツの普及貢献
 - d. クロスカントリースキーヤーに対する広報活動（大学スキー部、愛好者、高校生）
 - e. その他、アウトドアスポーツイベントにおいて競技の周知活動
- 4.4.7 競技基盤の整備
 - a. 競技規則の整備、周知活動。
 - b. 指導者講習会の開催。
 - c. スノーモービル講習会
 - d. 委員会組織体制の強化：サクセッションプランの策定と委員候補者育成。
- 4.4.8 国際大会開催
 - a. 2026年世界スキーオリエンテーリング選手権大会開催準備活動。
 - ① 2024世界選手権へ視察員派遣
 - ② イベントアドバイザー資格取得推進
- 4.5 選手認定事業「トレイル0」
 - 4.5.1 全日本大会の開催、公認大会の承認、大会コントローラの派遣を行う。
 - 4.5.2 パラリンピッククラス競技人口の増大、障害者団体・障害者スポーツ協会等への働きかけを行う。
 - 4.5.3 トレイル0普及員制度の見直し。
 - 4.5.4 トレイル0コントローラ講習会の開催（オンライン開催も視野にいれる）。
 - 4.5.5 日本トレイル0競技規則の改訂（IOF2024改訂も追加対応）、ガイドラインの見直し。
- 4.6 選手認定事業「MTBO」
 - 4.6.1 MTBO 広報用パンフレットの作成、配布。
 - 4.6.2 世界選手権報告会、壮行会参加および報告。
 - 4.6.3 MTBO 練習体験会開催 5回、のべ60名予定。
 - 4.6.4 SNS等を活用した各人や委員会広報。
 - 4.6.5 NaviTabi を利用しての国際プロモーションの実施。
 - 4.6.6 語学能力向上、Duolingo や その他各自習得プログラム実施
- 4.7 スポーツ助成等への申請
 - 4.7.1 （独法）日本スポーツ振興センターのスポーツ振興基金助成に応募し、選手強化活動、競技会活動を実施する。
 - 4.7.2 toto 補助金事業に応募し、普及活動、指導者育成活動、アンチ・ドーピング活動を実施する。
 - 4.7.3 その他の助成事業に応募し、選手強化活動、競技会活動を実施する。
- 4.8 女性委員会
 - 4.8.1 女性競技者増加、活性化を目的としたイベント（WOC 女子代表による報告会、女性選手対象のフォレスト練習

会 or 合宿) の実施、

4.9 アスリート委員会

- 4.9.1 「フェアプレイ精神」、「アスリートとそれを支える人の相互理解」で成り立つオリエンテーリング競技の発展に寄与すべく、オリエンテーリング競技の価値向上のために、競技者と JOA の橋渡しの存在を担い、スポーツとしての公平性を守り、健全な競技環境を実現する。
- 4.9.2 上記理念を実現すべく、具体的には、競技者からの意見を吸い上げ、関係者（組織）に働きかけること、JOA 会員からの相談に対して、競技者の立場から検討を行い、意見を具申していく。

V : その他目的達成に必要な事業

5.1 組織と財政基盤の強化

- 5.1.1 財政の健全化のための諸方策を継続検討し、実施する。
- 5.1.2 寄附金募集事業を行う。
- 5.1.3 賛助会員制度を有効利用し、会員の増加を推進する。
- 5.1.4 オフィシャルスポンサーの及びオフィシャルサプライヤーの開拓を行う。
- 5.1.5 組織の効率的な運営のため、委員会の再編を検討する。
- 5.1.6 事務局の組織強化
- 5.1.7 組織の将来構想検討を行う。
- 5.1.8 ガバナンスコードに遵守に向けての対応を引き続き行う。

5.2 アンチ・ドーピング委員会

- 5.2.1 日本代表選手への講習を実施する。
- 5.2.2 日本アンチ・ドーピング機構の協力を仰ぎ教育啓発活動をおこなう。
- 5.2.3 学連における教育啓発活動を充実していく。
- 5.2.4 選手からのアンチ・ドーピングに関しての相談に応じる。
- 5.2.5 日本スポーツフェアネス推進機構及び、日本アンチ・ドーピング機構と連携し国内でのアンチ・ドーピング活動に貢献する。

5.3 危機管理・コンプライアンス委員会

- 5.3.1 イベント・アドバイザー講習会、コーチ養成講習会にて安全管理の講習を行う。
- 5.3.2 安全管理の啓発のために講習会などを開催する。
- 5.3.3 役員、競技者に向けて、コンプライアンス研修を行う。

附則(略称)

AsOC	(アジアオリエンテーリング選手権)
AsJYOC	(アジアジュニアユース選手権)
JADA	(公益財団法人日本アンチ・ドーピング機構)
JWOC	(ジュニア世界オリエンテーリング選手権)
JWSOC	(ジュニア世界スキーオリエンテーリング選手権)
IOF	(国際オリエンテーリング連盟)
ISOM	(国際オリエンテーリング地区図式規程)
ISSprOM	(国際スプリントオリエンテーリング図式規程)
UNIVAS	(一般社団法人大学スポーツ協会)
WOC	(世界オリエンテーリング選手権)
WCUP	(ワールドカップ)
WUSOC	(世界学生スキーオリエンテーリング選手権)
WMOC	(世界マスターズオリエンテーリング選手権)
WTOC	(トレイル・オリエンテーリング世界選手権)
WMTBOC	(マウンテンバイクオリエンテーリング世界選手権)
WSOC	(世界スキーオリエンテーリング選手権)
WMSOC	(世界マスターズスキーオリエンテーリング選手権)
WMG	(ワールドマスターズゲームズ)

WG

(ワールドゲームズ)